

平成 29 年度

第 62 回 長野県中学校連合教科研究会

# 英語科

I	研究テーマ	1
II	趣 旨	1
III	指導者氏名と実践発表校一覧	1～2
IV	実践発表と協議内容	2～6
V	本年度研究会の反省と来年度の方向	7
VI	あとがき	7

# I 研究テーマ

「コミュニケーションの基礎を養うための授業の構想化と評価の在り方」

# II 趣旨

「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に育成するための場面設定や評価方法について、授業の実際や生徒の姿から、具体的に学ぶことができるようにしていく。学習指導要領を踏まえてのCAN-DOリストの作成と活用、教科書改訂による教材化の工夫についても、考えていくことができるようにする。

# III 指導者名と実践発表校一覧

- |       |     |       |    |                   |
|-------|-----|-------|----|-------------------|
| 第1分科会 | 指導者 | 櫻田 智也 | 先生 | (北信教育事務所指導主事)     |
|       | 世話係 | 佐藤 大樹 |    | (信州大学教育学部附属長野中学校) |
| 第2分科会 | 指導者 | 栗津原弘文 | 先生 | (東信教育事務所指導主事)     |
|       | 世話係 | 柳澤真理子 |    | (信州大学教育学部附属長野中学校) |
| 第3分科会 | 指導者 | 伊藤 尊夫 | 先生 | (中信教育事務所指導主事)     |
|       | 世話係 | 宮下 昌子 |    | (信州大学教育学部附属松本中学校) |
| 第4分科会 | 指導者 | 宮下富士子 | 先生 | (中信教育事務所指導主事)     |
|       | 世話係 | 矢島裕文  |    | (信州大学教育学部附属松本中学校) |

## 【第1分科会】「話すこと・聞くことに関する指導の工夫」について

発表順	地区	番号	校名	実践発表内容
1	下伊那		松尾小	下伊那の「見たい」「食べたい」「やってみたい」をALTの先生に伝えよう
2	松本	25	附属松本中	英語を介して人やものとかかわることで、相手に思いを寄せて、自ら表現を求め、自分の思いを表現していく英語の学習
3	長野上水内	27	市立長野中	複数の技能を行き来しながら生徒が自ら学ぶ英語“楽”習
4	諏訪	5	下諏訪中	他領域と関連付けた「聞くこと」の授業改善
5	塩筑	3	塩尻西部中	話すことに関する指導について
6	長野上水内	32	附属長野中	会話を継続・発展させていく力を高めていくための指導の在り方
実践発表者6名、その他3名 計9名				

## 【第2分科会】「読むこと・書くことに関する指導の工夫」について

発表順	地区	番号	校名	実践発表内容
1	中高	4	南宮中	生徒が関わり合いながら学び合う場面設定の在り方
2	上小	12	真田中	友とかかわりながら行うWriting活動
3	下伊那	2	高森中	まとまりのある文章を書くための指導の在り方
4	諏訪	16	富士見中	「まとまりのある英文を書く」場面で、Slow learnerを含むすべての生徒が参加している実感をもてる授業の在り方
5	長野上水内	32	附属長野中	会話を継続・発展させていく力を高めていくための指導の在り方
6	松本	25	附属松本中	英語を介して人やものとかかわることで、相手に思いを寄せて、自ら表現を求め、自分の思いを表現していく英語の学習
実践発表者6名、その他3名 計9名				

**【第3分科会】 「教科書の題材を使った指導の工夫」 について**

発表順	地 区	番号	校 名	実 践 発 表 内 容
1	塩筑	2	塩尻中	生徒が自ら表現したいと感じ、 ふさわしい構文・単語を用いて適切に自己表現していく指導
2	長野上水内	32	附属長野中	会話を継続・発展させていく力を高めていくための指導の在り方
3	松本	16	梓川中	Slow learners も参加できる英語活動はどうあったらよいか
4	上小	7	塩田中	自らの学びを表現できる生徒の育成
5	下伊那		富草小	絵本の活用
6	松本	25	附属松本中	英語を介して人やものとかかわることで、相手に思いを寄せて、自ら表現を求め、自分の思いを表現していく英語の学習
実践発表者6名、その他3名 計9名				

**【第4分科会】 「文法・語彙指導の工夫」 について**

発表順	地 区	番号	校 名	実 践 発 表 内 容
1	長野上水内		附属長野小	コミュニケーションの楽しさを感じながら、英語に親しむ子ども
2	諏訪	13	長峰中	生徒が気付き、学び合い、使えるための課題設定
3	松本	25	附属松本中	英語を介して人やものとかかわることで、相手に思いを寄せて、自ら表現を求め、自分の思いを表現していく英語の学習
4	松本	12	明善中	自信のある生徒の発言・発表を促す授業
5	長野上水内	32	附属長野中	会話を継続・発展させていく力を高めていくための指導の在り方
実践発表者5名、その他3名 計8名				

## IV 実践発表と協議内容

### 【第1分科会記録】

#### 1 松尾小学校の実践発表 「伝えたいことを、自信をもって紹介するための指導の在り方」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・児童が必要感をもって、英語で伝えたい思いを引き出す単元構想の工夫
- ・総合的な学習の時間とかかわらせた教科横断的な学習の推進、小学校での書く活動の工夫

(2) 指導者からのご指導

- ・小学校5・6年生における「書く」活動については「書き写す」「3～4文程度の慣れ親しんだ内容を書く」ことを扱う。ALTの先生に向けての情報を書く活動を位置付けていることが提案性がある。

#### 2 附属松本中学校の実践発表

「英語を介して人やものとかかわることで、相手に思いを寄せて、自ら表現を求め、自分の思いを表現していく英語の学習」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・松本を訪れる外国人観光客にとって過ごしやすい松本の街について考えていく中で、接続詞などの表現を獲得していく展開を工夫した。

(2) 指導者からのご指導

- ・ALT自身の人となりを知ろうとしていく活動がよい。ALTとのかかわりの中で言葉を獲得していった生徒の姿のように知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成を両輪として育んでいきたい。

#### 3 市立長野中学校の実践発表 「聞く力を高めるための指導の在り方」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・聞くことに目的をもたせた上で、リスニングポイントを整理し、友に伝えていく活動を行った。

・ジグソーリスニングで情報共有の必要感をもてるように指導している。

(2) 指導者からのご指導

・生徒の困り感からスタートし、英語を聞き取れるための手だてに焦点を当てて単元等を貫く継続的な活動で行っていることが子ども力につながっている。

4 下諏訪中学校の実践発表 「聞く力を高めるための指導の在り方」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

・聞くことと他の領域を関連付けて指導し、聞く力だけでなくコミュニケーションを図ろうとする姿も向上した。

・英語を聞く前と後に活動を仕組み、聞くための目的をもたせて活動を行うようにした。

(2) 指導者からのご指導

・インプットしたことを基に、子ども自身が自分で再構築し、アウトプットにつなげる実践を大事にしているで、技能の統合の例として参考になる。

5 塩尻西部中学校の実践発表 「話す力を高めるための指導の在り方」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

・Lesson Goal を意識した授業展開の工夫

・スピーチ活動における話し手・聞き手への指導の工夫

(2) 指導者からのご指導

・なぜアイコンタクトなどが必要なのかといった点を生徒と共有していくことで、生徒が自覚し、毎回指導する必要がなくなった。話す内容により焦点を当てて、話す力を高めていきたい。

6 附属長野中学校の実践発表 「会話を継続・発展させていく力を高めていくための指導の在り方」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

・1回目に行った友との会話を、「雑談 Point」を基にタブレット端末で振り返ることを通して、2回目の会話ではさらに会話を継続・発展させていくことができるようにした。

(2) 指導者からのご指導

・考えをもつための視点とそれらを英語で表現していくための手だてを教師と生徒が明確にもっていたことが会話を継続・発展させていくことにつながっていた。

文責：信州大学教育学部附属長野中学校 佐藤 大樹

## 【第2分科会記録】

1 南宮中学校の実践発表 「グループ活動を個に返す指導、評価について」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

・教師の知人の外国人に中野市のオススメスポットを紹介するまとまりのある英文を書く場面で、グループで行った活動を個に返して書く力を付ける方法に課題が見つかった。

(2) 指導者からのご指導

・グループ活動では、活動の目的や相手意識などを基にどのような要素が英文にあるとよいかを共有する活動を行い、英文は個で書かせるとよい。あるいは、グループで英文を完成させた後、教師が似たような場面を再度設定し、個で書かせると活動を行うと個の力になるのではないかと。

・評価は、似たような活動を後日設定し、個で行わせる。その中で評価をするとよい。ただし、A評価・B評価・C評価の観点を教師が明確にもっておくことが大切である。

2 真田中学校の実践発表 「発表の仕方の在り方」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

・家族や友人など身近な人にしてほしいことを書く場面で「want 人 to ~」の文を班で互いに教え合いながら1人1文以上書き、班ごとホワイトボードに書きだして発表した。

・発表をする際に、主語は○で囲み、want to は△で囲み、人は□で囲むなど、視覚的に見えるようにすると slow learner でも分かりやすくなるのではないかと。

(2) 指導者からのご指導

・授業の目的がはっきりしていると slow learner でも文法の用法が理解しやすいし、イメージをもちやすくなる。例えば、今回の文法では「ちょっとした悩みを相談しよう」などの目的を設定し、「want 人 to ~」の文を書くことで目的がはっきりして、活動がより活発化するのではないかと。

3 高森中学校の実践発表 「まとまりのある英文を書く writing 指導の在り方」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・新しいALTに高森町を紹介するまとまりのある英文を書く場面で、手だてとして、英文を書く前に5W1Hを意識させるマインドマップを作成させた。まとまりのある英文を書くときに気を付けていることがあれば知りたい。

(2) 指導者からのご指導

- ・書く内容がはっきりするので、マインドマップは構成力を高めるためのよい手だてである。
- ・目的（高森を知ってもらおう）場面（紹介文を作る）状況（日本のことを知らないALT）を生徒が知り、そして相手意識（ALTは日本のことをどれくらい知っているのか）をもち、それに応じて書く内容を取捨選択できる能力（思考力・判断力・表現力）を付けていくことが大切である。

4 富士見中学校の実践発表「Writing指導の見届けの在り方」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・交流のあるNZの生徒たちに日本を紹介するまとまりのある英文を書く場面で、授業中に紹介文を完成させた生徒たちに、1時間の授業の最後の見届けで何を指導したらよいか。
- ・友と完成した紹介文を見合っ、感想を述べ合ったり紹介文をさらに分かりやすくするために文を付け足したり、あるいは分かりやすく端的に伝えるために文を削除したりする活動はどうか。

(2) 指導者からのご指導

- ・生徒たちが説明文を書くためのノウハウを知らなければならない。授業の最後の見届けでは、どのような意図でその英文を入れたのか、または、なぜその英文を3文目に入れたのか、といったことを説明させ、説明文にはどういう視点が必要かを再度確認する時間にするとよい。

5 附属長野中学校の実践発表「会話を継続・発展させていく力を高めていくための指導の在り方」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・1回目の会話をタブレット端末の録画で振り返り、友と意見交換をすることで、2回目の会話では1回目よりも会話を深めたり広げたりする会話活動を行った。

(2) 指導者からのご指導

- ・どういことができればよいのかを「雑談ポイント」で示している点が良い。
- ・「友の魅力を紹介しよう」が目的なので、会話を長く続けることが魅力を引き出すことにつながっているのか、という思考も働かせなければいけない。友の魅力を伝えたい、魅力を引き出すためにこの表現を使いたい、というところまで思考力・判断力・表現力をもっていけるとよい。

6 附属松本中学校の実践発表

「英語を介して人やものとかかわることで、相手に思いを寄せて、自ら表現を求め、自分の思いを表現していく英語の学習」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・外国人観光客の視点や困っていることに関心を寄せ、外国人観光客が過ごしやすい街についての自分の考えを、メモをもとに、学んだ表現を用いながら即興でやりとりする活動を行った。

(2) 指導者からのご指導

- ・使いながら英語を獲得していくことが大切。そのために、何回も活用する場を設けていく。
- ・主体的な活動を生み出すためには「相手意識・目的・場面・状況」を明確にし、教師がリードしていくことが大切である。

文責：信州大学教育学部附属長野中学校 柳澤 真理子

【第3分科会記録】

1 塩尻中学校の実践発表

「生徒が自ら表現したいと感じ、ふさわしい構文・単語を用いて適切に自己表現していく指導の在り方」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・生徒の興味を引く導入や、生徒が表現したくなる場面設定について。
- ・会話表現の単元における指導方法や1時間の流れ、教科書の活用方法について。

(2) 指導者からのご指導

- ・習得のための活動と習得したことを活用する活動を分けて考え、本時のゴールを明確にしたい。
- ・その言語材料が使用される必然性のある場面を分かりやすく示していくことが大切である。

2 附属長野中学校の実践発表「会話を継続・発展させていく力を高めていくための指導の在り方」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・即興的に話す力を付けるための指導や会話を継・発展させていくための手だての工夫について

- ・聞いたり読んだりしたことについて自分の意見や考えを即興的に伝え合うための手だてについて
- (2) 指導者からのご指導
- ・思考力・判断力をどう高めるか、目的・場面・状況に応じて何を話すか生徒が考えることが大事である。
  - ・帯活動で繰り返し、即興性に慣れることも大事だが、コンテンツ、内容の高まりにも目を向けていきたい。

### 3 梓川中学校の実践発表 「Slow learners も参加できる英語活動はどうあったらよいか」

- (1) 発表されたこと、話し合われたこと
- ・英語が苦手な生徒が意欲をもって取り組むことができる題材や課題設定について。
  - ・Slow Learners も参加できる授業やグループ学習の工夫について。
- (2) 指導者からのご指導
- ・個に応じて「つける力」を明確にし、個への支援とともに全体への支援を考えていきたい。
  - ・グループ活動の前に、個の考えがもてるように授業を展開したい。

### 4 塩田中学校の実践発表 「自らの学びを表現できる生徒の育成」

- (1) 発表されたこと、話し合われたこと
- ・表現力を高めるための身近な場面設定や教師のモデル対話、ペアでの対話活動等、支援の工夫。
  - ・表現活動へとつなげるための会話表現の蓄積、意欲を高める活動場面の設定について。
- (2) 指導者からのご指導
- ・帯活動で自分のことをやり取りする経験の積み重ねが大事である。
  - ・Today's Point を生徒と共に据え、生徒が自分の学びを振り返ることができるようにしたい。

### 5 富草小学校の実践発表「絵本の活用」

- (1) 発表されたこと、話し合われたこと
- ・絵本を活用した小学校での授業実践（ワークショップ形式で、実際に授業を行っていただいた）
  - ・小学校での外国語活動のねらいとそれを踏まえた中学校での英語学習の目指す姿について。
- (2) 指導者からのご指導
- ・学級担任の先生が楽しそうに英語を使っている姿が児童の憧れや学びへの意欲になる。
  - ・小学校でどのような学びを積み重ねているのか、中学校教員が知っておくことが大事である。

### 6 附属松本中学校 宮下昌子先生の実践発表

「英語を介して人やものとかかわることで、相手に思いを寄せて、自ら表現を求め、自分の思いを表現していく英語の学習」

- (1) 発表されたこと、話し合われたこと
- ・「話すこと [やり取り]」の力を高めていく言語活動や表現したくなる単元構想の工夫について。
  - ・新CSで目指す資質、能力について。
- (2) 指導者からのご指導
- ・コミュニケーションを通して、見方・考え方を再構築していく実践をさらに積み重ねたい。
  - ・どのように再構築されたのか、生徒の思考の流れが見えるようにワークシート等を工夫していくことも必要である。

文責：信州大学教育学部附属松本中学校 宮下 昌子

## 【第4分科会記録】

### 1 信州大学教育学部附属長野小学校の実践発表

「コミュニケーションの楽しさを感じながら、英語に親しむ子どもについて」

- (1) 発表されたこと、話し合われたこと
- ・小学校5年生がALTと絵本「3匹の子ぶた」の原作を読み、話の結末がhappyだったかを考える。
  - ・活動中の伝えたいことと伝えられることのギャップ。聞きたくなる、伝えたいくなる題材とは。
- (2) 指導者からのご指導
- ・活動がただ楽しいだけではなく、思考・創造のために絵本が使われていることがよい。
  - ・絵本を通して何をコミュニケーションしていくかを考えていく必要がある。

## 2 長峰中学校の実践発表

「生徒が気付き、学び合い、使えるための課題設定」について

- (1) 発表されたこと、話し合われたこと
  - ・ 中学校 1 年生、台湾の生徒との交流において、長峰中の学校生活を英語で紹介する活動。
  - ・ 表現活動において、既習表現を使う場面を設定できないこと。（授業者の自己課題）
- (2) 指導者からのご指導
  - ・ 1 つの場面を describe したり retell したりする力を毎時間の活動の中で付けていきたい。
  - ・ 「学び合い」の活動であっても個の評価をきちんとしていくことも大切にしていきたい。

## 3 附属松本中学校の実践発表

「英語を介して人やものとかかわることで、相手に思いを寄せ、自ら表現を求め、自分の思いを表現していく英語の学習」について

- (1) 発表されたこと、話し合われたこと
  - ・ 中学校 2 年生、松本の街の Universal Design を題材に、外国人と意見や考えを交歓する実践。
  - ・ 自分の思いを表現する経験を重ねることで、英語を介して人やものとかかわるよさを実感する生徒の学びについて。
- (2) 指導者からのご指導
  - ・ 本実践は、新学習指導要領における「見方・考え方」の一つの方向を示している。
  - ・ 松本という地域性は大きいですが、外国人の中にも観光客、在住の方、保護者の方等様々な方がいる。対象によってはどの地域でも実現は可能で、題材の発展性も期待できる。

## 4 明善中学校の実践発表 「自信のある生徒の発言・発表を促す授業」について

- (1) 発表されたこと、話し合われたこと
  - ・ 中学校 1 年生、学習した疑問詞を使って友とクイズカードを作るという実践。
  - ・ 生徒が授業で大きな声で発言できないことに悩み。どのような声かけをしていったらよいか。
- (2) 指導者からのご指導
  - ・ 英語の授業以外からも生徒の実態を把握し、周囲の先生方と相談しながら対応を模索していく。
  - ・ 授業の指導や活動はとにかくいろいろ挑戦してみることで、生徒の興味関心が高いものが見付かる。

## 5 附属長野中学校の実践発表 「会話を継続・発展させていく力を高めていくための指導の在り方」

- (1) 発表されたこと、話し合われたこと
  - ・ 「雑談 Point」を基に友との会話の話題を深めたり広げたりして情報を得るという実践。
  - ・ 会話の場面によっては、縦展開、横展開の必要感が変わってくるのではないかと。（参会者の意見）
- (2) 指導者からのご指導
  - ・ 視点をもって会話を行うと振り返りの視点にもなる。ライティングにも応用できる。
  - ・ Can-Do リストも大いに参考にしたい。

文責：信州大学教育学部附属松本中学校 矢島 裕文

## V 本年度の反省と来年度の方向

項 目	内 容
○本年度の研究テーマについて	・ これまでの全県テーマ「コミュニケーションの基礎を養うための授業の構想化と評価のあり方」をあと 3 年続け、平成 33 年度から、「コミュニケーションを図る資質・能力を育成するための授業の構想化と評価のあり方」など、新学習指導要領に即したテーマにしていく。また、全県テーマを年度当初の早い段階で周知していきたい。
○本年度の研究の成果と来年度の研究の方向について	・ 5 技能（聞くこと・読むこと・話すこと（やり取り）・話すこと（発表）・書くこと）を育成するために、どのような言語活動を通して指導をされてきているか、各校の実践を発表していくようにしたい。

○研究会当日の運営について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望者による実践発表という内容だったので、参加してみた先生方もいらっしゃったので、来年度も継続していきたい。</li> <li>・小学校の先生方にも参加していただけるように、小学校にも案内通知を出していくのはどうか。</li> <li>・実践発表だけではなく、講演会を行ったことが好評であったが、その分レポートについて話す時間が短くなってしまった。指導主事の先生方からは指導の時間を削減して、意見を交換する時間にあててほしいというご意見もいただいた。</li> <li>・講演会を行うにしても、本年度のように事前アンケートがあると先生方のニーズに沿ったものになるので、そういった点を考えていきたい。</li> </ul>
○運営について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メールでの連絡でよい。来年度も継続していく。</li> </ul>
○運営全般について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分科会構成アンケートの年齢の箇所を〇〇代ではなく、教職〇年目と書いていただき、バランスよく分科会を構成していくようにする。</li> <li>・各校の実践発表という形はよいのだが、先生方のニーズに応えるという意味では、困っていることを共有して考えていく時間でもよいのではないかというご意見もいただいた。</li> </ul>

## VI あとがき

お忙しい時期に、県下各地からたくさんの先生方にお集まりいただき、生徒の学ぶ様子を基に指導のあり方について熱心に討議がなされ、多大な成果を収めることができました。

終日にわたって全参加校の研究内容と今後の方向についての的確なご指導、ご助言をしてくださいました、指導者の櫻田智也先生、栗津原弘文先生、伊藤尊夫先生、宮下富士子先生、講演をしていただきました信州大学の田中江扶先生に心より感謝申し上げます。そして、ご多用の中、日々の実践について語り、研究会を実りあるものにしてくださった参会の先生方に心から感謝申し上げます。

来年度も多くの先生方に参加いただき、英語教育の在り方について熱心な討議がなされることを願い、また、先生方の今後の一層のご活躍を祈念申し上げ、御礼とさせていただきます。ありがとうございました。

委員長 佐藤 大樹  
副委員長 宮下 昌子